



## ご挨拶

2024年4月から児童福祉法の一部改正に伴い、頼る人がいないなど、家庭生活に支障が生じている特定妊産婦の支援強化を図るための「妊産婦等生活援助事業」が法定事業としてスタートしました。この事業は新生児の殺害遺棄事件(0歳0日の虐待死)や孤立出産、飛込出産、無戸籍児の出産等による育児放棄や虐待の予防と支援の強化として大いに期待されるものです。

2024年度は、当法人が2018年9月から民間の力だけで行ってきたこれらのいのちを守る事業が国の制度としてスタートした記念すべき年であったと言えます。国の担当庁であるこども家庭庁からは、兵庫県において行政と民間とで取り組んできたこの働きに対して、先駆的と高い評価を得ております。

新設されたこの事業を担う拠点は増えつつありますが、さらに全国に広まる必要があります。また、仕組みとして課題があることは否めません。そこで、各地ですでに活動している妊産婦等生活援助事業所を中心に、特定妊産婦等の支援に関わる自治体や関係機関等のネットワークの構築を図ってきました。これまで共同勉強会を開いてきた事業所を中心に準備を重ね、2024年3月に一般社団法人「くるりと」が立ち上りました。私、永原が共同代表の一人として、また当法人の施設長の西尾が運営委員として重責を担うことになりました。特定妊産婦等が安心して生活していくために、支援事業所や自治体、関係機関だけではなく、企業や一般の方々など多くの方々が参画し、社会全体が"くるりと"困難を抱える妊産婦を取り巻き、弱い立場の者が大切にされる社会へと価値観が"くるりと"変わり、どんな状況の妊産婦でも安心して出産子育てができる温かで、優しい社会の実現を目指したいと考えています。

さて、2024年度の当法人の事業報告の概要ですが、相談件数は13,810件で一日平均相談数は約40件、マタニティホームmusubiに入居された妊産婦は21名でした。

また、2024年度から始まった県の事業「Z世代のプレコンセプションケア講師派遣事業」を当法人が受託し、県内の高校、専門学校、大学等44か所で幸せな人生を構築するための情報を発信しました。いのち語り隊の性教育講演は111か所、併せて155か所で、いのちを守る砦である小さないのちのドアだからこそ伝えることができるいのちと性の大切さを熱く語りました。

相談件数、入居者数は前年度に比べ少し落ち着いた年度でしたが、その間に、事務所や相談室のリフォームをし、勤務時間においても見直し、より働きやすい環境を整えました。

2024年度も皆様方の尊いご支援により、多くのいのちを守り、またわが国に妊産婦の生活のための制度ができたことをご報告できることに心より感謝申し上げます。

制度が新設されたとはいえ、制度の枠外に助けなければならないいのちがまだまだ多く存在します。今後とも皆様のご理解とご指導、ご支援を賜りたく宜しくお願ひ申し上げます。

公益社団法人 小さないのちのドア  
代表理事 永原 郁子

## ～沿革～ 小さないのちのドアの歩み (小さないのちのドア設立～2025年3月31日)

2017/1	行き場のない女性の居場所づくりのための「一般社団法人マタニティホーム・マナ」設立
2017/12	ベビークラッペ（ドイツ版こうのとりのゆりかご）発祥のドイツへ視察。ポストではなくドア（面談型）の必要性を確信し準備開始
2018/9	一般社団法人小さないのちのドアに名称変更 24時間体制の相談事業開始
2020/9	兵庫県より悩みや不安を抱える若年妊婦等支援事業受託・開始
2020/12	行き場がなく、頼る人もいない妊産婦のための生活支援施設「マタニティホームMusubi」開設・受け入れ開始
2021/4	兵庫県より予期せぬ妊娠SOS相談事業受託・開始
2019/9	「小さないのちのドアを開けて」出版
2022/2	一般社団法人から公益社団法人へ移行
2022/6	兵庫県より特定妊産婦等居場所確保 自立支援事業受託・開始
2022/12	日本子ども虐待防止学会発表
2023/6	「マタニティホームMusubi」増室のためのリフォーム完了 ユニット別支援開始
2023/9	日本生活指導学会発表
2023/10	5周年記念イベント開催 全国妊娠SOSネットワーク共催妊娠SOS研修開催
2023/11	日本子ども虐待防止学会発表
2024/4	児童福祉法改正 妊産婦等生活援助事業開始 Z世代プレコンセプションケア講師派遣事業委託
2024/12	日本こども虐待防止学会発表



## 小さなのちのドアの活動

これまでの活動の中で、社会的な課題を複雑かつ重層的に抱える妊産婦さんたちに出会ってきました。予期せぬ妊娠によって「孤立」してしまう現状とともに、予期せぬ妊娠を通してつながることができ、この機会を人生のターニングポイントとして幸せに歩んでいけるように、寄り添い伴走していきたいと、相談から自立に至るまで一貫した支援活動を行っています。温かな社会の実現を目指して、小さなのちのドアの働きをさらに広く、深く、温かなものにし、一人でも多くの妊産婦さんや小さなのちにつながができるよう尽力してまいります。



## 活動紹介① 相談支援

2024年は3,317人の方から13,810件の相談をいただきました。たくさんの方と出会い、つながることができたことに感謝しています。私どもができるることは本当に小さなことです。正確な医学情報や支援制度についての情報などを伝え、必要に応じて医療機関や行政、地域の支援団体などにつなぎながら、相談者の方々のお困りごと、お辛いことなどに寄り添うことを大切にしてきました。相談の件数としては、2023年度に比べやや減少したものの、全国的に相談機関の数が増えたり開設時間が延長されるなど、相談窓口が充実してきていることが背景にあると感じています。悩みを抱える女性たちが以前よりも様々なところにアクセスできるようになってきたということは、社会全体の前進の一つなのだと信じています。その一方で、2024年度はDVや性被害に関する相談が例年の1.5倍ほど寄せられており、支援の必要性の高まりを感じています。また緊急性の高いケースとして病院を受診できないまま陣痛が始まってしまった方や、自宅等で出産をされた後にご相談をいただいたケースが4件ありました。全件、無事に女性の人生やいのち、赤ちゃんのいのちが守られたことに心から安堵しています。しかしながら近隣で新生児遺棄事件が起きたこともあり、「どうしたらつながることができたのだろう」と答えの出ない問いを抱えながら私どもができるることを精いっぱい、今つながることができるお一人お一人に丁寧に関わることを積み重ねていけたらと願っています。今もなお、どこにもつながれずに孤立する妊産婦さんがこの社会には数多く存在しています。だからこそ、私どもは相談しやすい窓口を目指して、広報活動等にも力をいれながら、これからもお一人お一人に真摯に向き合ってまいりたいと思います。「誰にも相談できない」と感じるその瞬間に、「ここなら相談してみようかな」と思ってもらえるような、あたたかく、信頼される相談窓口でありたい、そう願いながら2025年もスタッフ一同、日々の歩みを続けてまいります。



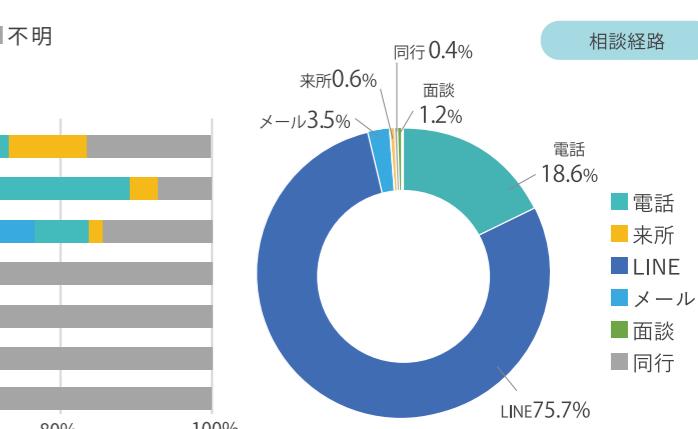
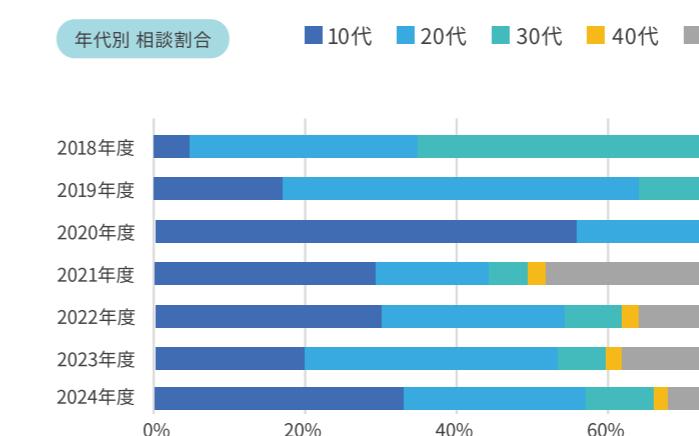
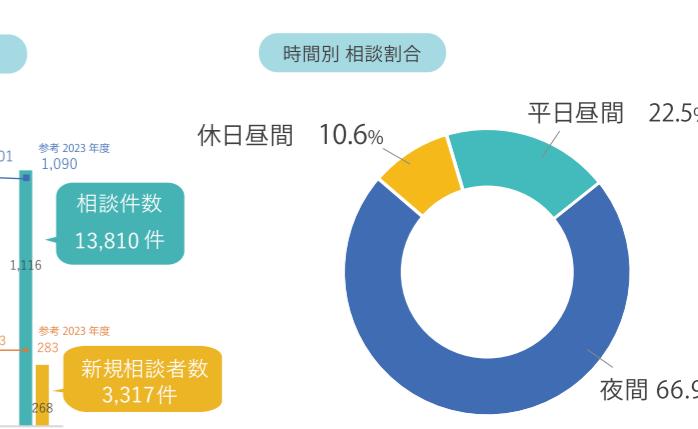
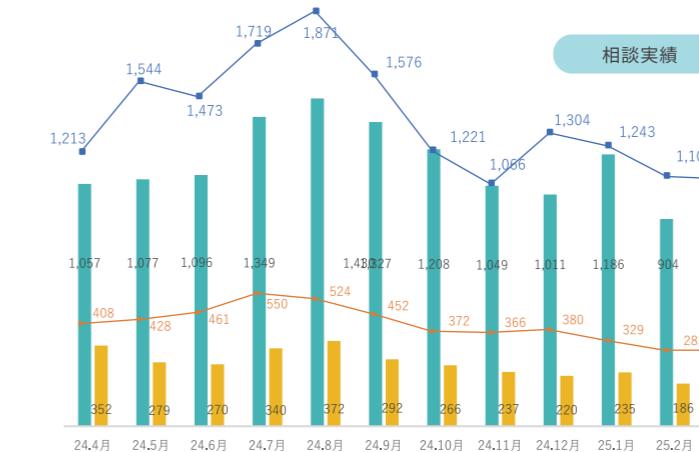
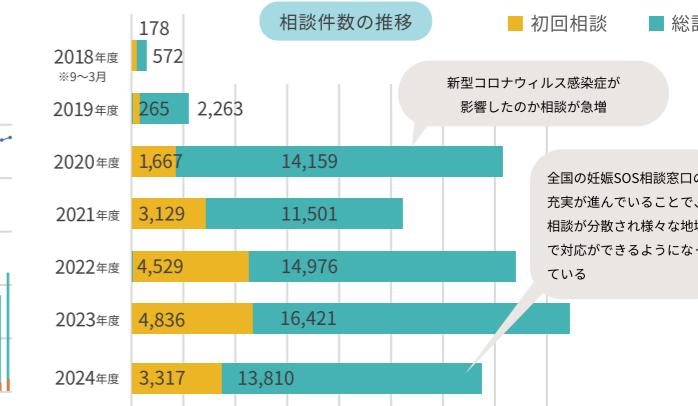
居場所の提供・事業の周知  
カフェMusubi



SNSでの発信を強化



相談支援体制の強化・スタッフ育成



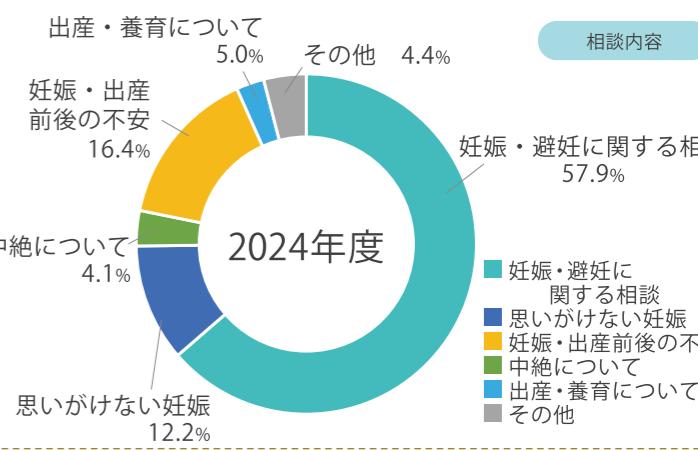
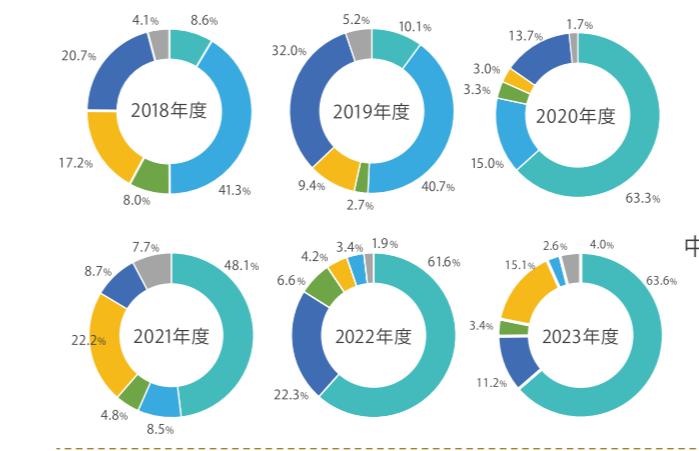
## 活動紹介② 同行支援・連携調整

### 小さいのちのドアの目指す社会

- \* 結婚に至らない妊娠でも  
女性と胎児の尊厳が守られる社会に！
- \* 産んだ後、赤ちゃんを託すこと  
(特別養子縁組)が認められる社会に！
- \* 最も小さいのちである胎児や赤ちゃんが  
最も大切にされる豊かな社会に！

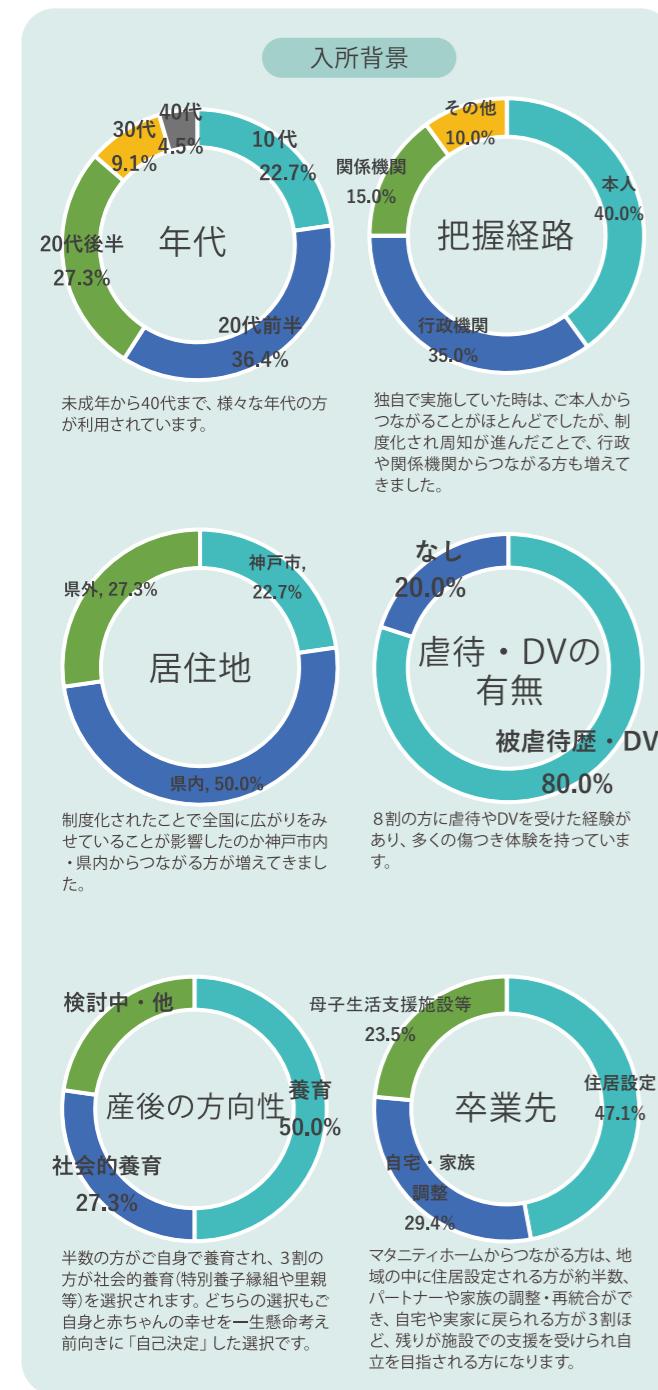


私どもが関わる妊産婦さん達は、様々な困難を抱えていることが少なくありません。連携する機関は多岐にわたり、保健、医療、福祉、法律、教育等様々なところとつながり、連携して支援をしていく必要があります。ご自身で申請に行く、新しいところに行くということはとてもハードルが高いこともあり、一緒に行くことで代弁したり、顔つなぎをしたり、安心して地域の中で生活ができるよう整えるお手伝いをしています。2024年度は制度化されたこともあり、認知が進み、より円滑に連携が取れるようになってきました。対象者の方々が安心して妊娠出産を迎えるように、そして産後も幸せに安心して地域生活を送ることができるよう関係者・関係団体の方々と、対象者の理解を深め、方向性を一致させながら、役割分担し、お一人お一人に適切な支援を行えるように取り組んでまいりたいと思います。



## 活動紹介③ 生活支援・自立支援

2024年度は、2023年度から継続して入居されている方を含め、22名の方の入居がありました。今年度は、これまでに比べて長期での入所となるケースが増えていますが、それぞれの方が抱えておられる背景や課題に丁寧に向き合い、寄り添いながら、時間をかけて支援を行う必要性を強く感じる1年でした。妊娠中～産後の安全安心のための支援はもちろん重要ですが、出産後の長い人生を、どう幸せに歩んでいけるかという視点もとても大切です。ホームで安心して生活を送り、ご自身の課題に向き合いながら、笑顔でここからまた地域の中で歩んでいけるように、伴走支援することを大切にしています。入居されている方々は、これまでの人生の中で、多くの傷つき体験や困難を重ねてきた方も少なくありません。お一人お一人にとって、ここが"Home"として"安全基地"として機能できるような、そんな温かな支援を行えるようにこれからも尽力してまいります。また2024年度は、退去後の支援として、卒業生を対象としたイベントの開催や、物資の提供などのアフターフォローも大切にしてきました。地域の中で卒業生たちが再び孤立することなく、笑顔で歩めるようにと伴走をし続けること、いつでも帰ってきていい場所として、存在し続けることが大切だということを感じています。これからもお一人お一人の人生、いのちが大切にされ、彼女たちが自分らしく輝いていけるような居場所づくりを目指し、丁寧に伴走を続けてまいりたいと思います。



## 活動紹介④ 予防・普及啓発

女の子たちに届きやすいアプローチを考え、2024年度は美容専門学校の協力をいただきながらの居場所づくりを行いました。前年度に比べ、倍以上の女の子たちが遊びに来てくれ、思い思いに過ごされたり、からだや性に関する相談をしてくれたり、居場所としての機能を果たすことができました。また認定NPO法人D×Pさんが運営されているユースセンターにも月2回ほど行かせていただいて、性に関する相談を受けています。D×Pさんが運営されているユースセンターは、道頓堀のグリコ看板付近(いわゆるグリ下と呼ばれ、虐待や経済困窮等により孤立した若者達が集う場所)の近くで運営されており、若者たちが犯罪等に巻き込まれないように、自立や居場所づくりの支援を行っておられます。このグリ下に集う若者たちの多くは、複雑な課題を抱えておられ、私どもが支援する女性たちの背景と重なる部分も大きく、予期せぬ妊娠を未然に防ぐ、あるいは予期せぬ妊娠に陥った際に相談できるようにと連携して相談事業を行っています。地域の団体さんと連携しながら、若い女性たちの支援の輪を広げていけることはとても心強く、これからも様々な団体さんとつながりながら支援を展開してくことができたらと思います。



## 活動紹介⑤ 講演・Z世代プレコン・いのち語り隊

2024年度は、兵庫県から「Z世代へのプレコンセプションケア講師派遣事業」を受託したこと、高校生や大学生のまさに性にまつわる問題・課題を抱えるZ世代に向けて、将来の妊娠について考えるための健康教育を行う事ができました。様々な性にまつわる相談を受けているからこそ語ることができる性のお話、人生に関わるお話ができると思っています。2000年から続くいのち語り隊の講演も含めると、155講演実施することができ、幼稚園から学生、教員、保護者、支援者の方々等、様々な方々に向けてお話を聞いていただくことができました。小さいのちのドアが行う性教育は、性器教育でも避妊教育でもなく、性の情報が氾濫するこの社会の中で、正しい性の情報を伝えながら、自分自身と他者との生と性を大切にできるよう、性の本質を伝え、自他肯定感を高める語りを大切にしています。相談事業に寄せられるリアルな声に耳を傾けてきた小さいのちのドアだからこそ語ることができる性のお話をこれからも届けてまいりたいと思います。



プレコンセプション事業の講演の様子が2神戸新聞に掲載されました。

### 「いのちの教室」お申込み順次受付しております！

これからの時代を担う子どもたちが心身ともに健康に育つ環境づくりの一環として、是非「いのちの教室」をご利用ください。経験豊富な助産師が年齢に応じた内容でいのちの大切さを伝えております。



※講演料・講演内容については、随時ご相談に応じますので  
「小さいのちのドア事務局」までお気軽にお問い合わせください。

- ◆幼稚園・保育園のお子様には、人形劇・抱っこ体験
- ◆小学生には講演の他に体験学習として
  - ・胎児の重さや大きさを実際に人形で体感
  - ・赤ちゃん人形を抱っこしていのちの尊さを体感
  - ・妊婦ジャケットで妊婦さんの体感など貴重な体験ができます。
- ◆大人向けには60分・90分で講演をご用意しております。

## 妊娠婦ホストファミリー

妊娠婦ホストファミリーは、「地域の中に実家のような居場所を」をコンセプトにマタニティホームだけでなく、ホームを卒業された女性たちが地域の中に私だけの場所を作ることができたらと、親子丸ごとサポートしていただける家族を増やしていく事業です。私たちは、帰る場所、安全な場所、温かな迎えてくれる場所があるからこそ様々な事を乗り越えていくことができます。土台となる場所を地域の中で作ることで、孤立することなく地域での生活を過ごしていくと考えていますし、迎えてくださる家族が増えていくことで社会の温かな眼差しが広がっていくことも期待しています。

2025年度も研修を実施予定です。  
ホームページ等でご案内いたしますので、ご確認ください。

### 妊娠婦ホストファミリーの流れ

- \*研修を受けていただき、登録
- \*妊娠中からホームでの顔合わせ等によりマッチング
- \*産後より支援開始



地域で活動されている方もご参加ください、支援の輪が広がっていくことを嬉しく、ますます期待が高まります。

## チャリティー

4年ぶりにJamminさんとのコラボ企画を実施することができました。たくさんの方々にご支援いただき、14万円を超えるご支援をいただきました。心から感謝申し上げます。今回は、弱い立場にある女性たちや小さいのちに対して温かな眼差しが社会に広がっていくことを期待して、切り株の上の小さいのちを守る親鳥、そしてさらにそれを見守る動物たちとやさしい自然をモチーフに精一杯生きる、確かに息づく小さいのちを皆で守る社会への思いを込めていたいたいデザインです。

そこに“Above all, clothe yourselves with love, which binds us all together in perfect harmony (これらいっさいのもの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帶である。/コロサイ人への手紙3:14)”という聖書のみことばを添えてもらっています。ありのまま目の前の人たちを愛していくことができたら、そういうも祈りながら働きを進めています。



多くの傷つき体験をしている女性たちが少くない中で、愛されていることを言葉や行動を通して伝えできたらと思っています。

## ボランティア

様々ななかたちで関わってくださるボランティアさんたちがおられます。温かな社会の眼差しが、ボランティアさんの活動を通して女性たちに伝わっていることを実感しています。2024年度は、コロナ禍でなかなかできなかったボランティア感謝祭をもつことができました。平日だったため皆さんにご参加いただくことはできませんでしたが、皆様の温かな思いをお聞きすることができ、感謝いたします。



鍼灸師さんたちによる  
お灸や鍼、マッサージの  
リラクゼーションボランティア



美味しいお食事を  
いつも笑顔と共に届けてくださる  
お食事づくりボランティア



発送作業など、  
事務局のサポートをしてくださる  
事務ボランティア

他にお裁縫やお掃除、アウトリーチなど  
様々な働きがあります。ともに愛を届けて  
くださるボランティアさんをいつでも募集  
しています。皆さんの届けやすいかたちで  
この輪に加わっていただけると幸いです。



## 視察・来訪

### 北区長様 観察

マタニティホームMusubiが位置している神戸市北区の区長様が観察に来てくださいました。滞在する妊産婦さんことで北区には大変お世話になっているため、こうして直接ご挨拶ができる事、また私どもの活動を直接知っていただけることをうれしく思います。

こども家庭庁妊産婦等生活援助事業ご担当者様

日本財団妊娠SOS・産前産後の居場所事業ご担当者様

埼玉県議会議員の皆様他、多くの方々にお越しいただきました。



参議院議員 金子先生 来訪

G&M文化財団 来訪

2024年からは妊産婦等生活援助事業が開始された事もあり、様々な自治体や関連団体の方々からお問い合わせが届いています。社会全体が孤立する妊産婦さんに目を留め、支援が開始されることをうれしく思っています。これまで独自で実施してきた経験をお分かちできたらと思っていますので、妊産婦等生活援助事業を開始するにあたり、見学などのご希望がありましたらお問い合わせいただければと思います。

## メディア取材

日本テレビ取材  
大塚製薬取材  
サステナNet取材  
読売新聞社取材  
他



「NHK こころの時代」取材風景

永原の半生を通して、小さなのちのドアの活動が取り上げられていますので、ぜひご覧ください。



NHK こころの時代



NHKハートネットTV

## 今後の課題

### 事業内容

1. 思いがけない妊娠により途方に暮れる妊婦や、出産後育てられないと追い詰められた女性への助言、相談窓口「小さなのちのドア」の開設及び運営
2. 思いがけない妊娠により途方に暮れる妊婦や、出産後育てられないと追い詰められた女性の生活支援施設「マタニティホーム・Musubi」の開設及び運営
3. 妊産婦及び児を取り巻く現代の複雑な社会環境の現状とその対策を周知し、必要な際に適切な窓口へとつなぐことができるよう講演、セミナーその他の方法により社会に広報啓発する事業
4. その他当法人の目的を達成するための必要な事業

### 2025年度 事業計画

#### ー支援体制の充実・強化に向けてー

1. 相談者の生き方に触れるような心ある相談支援
2. 安全安心な妊娠出産育児の支援と、癒しと力をつける場としての居場所づくり
3. つながりやすい場を目指したアウトリーチの充実
4. 性教育・プレコンセプションケアの充実
5. 妊産婦ホストファミリーのシステム構築
6. 困難を抱える妊産婦支援のネットワーク体制の強化
7. 暖かな社会の循環づくり

## 私たちの思い

### 相談支援員

私たち相談員のもとには、日々昼夜問わず全国各地から送られてくる電話やメール、LINEでの相談が届きます。お顔は見えなくても、こちらにつながってくださることそれ自体が大変勇気がいる一步だったであろう、それぞれの相談者さまの背景に思いを馳せながら、一言一言を綴らせていただいております。少しでも不安な気持ちやお辛い気持ちが和らぎますようにーそんな願いを込めてこれからも頑張っていきたいと思います！

相談支援員 M

### 居場所

私たちは、入居者さんそれぞれがお持ちの難しい背景に少しでも寄り添えるように毎日カンファレンスを重ね、その方たちが心身ともに安心して安全に笑顔で過ごせるよう応援する祈りで対応させていただいております。新たな取り組みとして、この春から毎日の昼食・夕食時はカフェスペースで一緒に食事をしたりおしゃべりをしたりしながら過ごしております。そうすると、入居者さんの新たな一面が見えたり、何気ない会話から笑顔が生まれる場面もあり、安心した楽しい時間につながればいいなと願っています。

医療職 M

### 母子支援員

私たち母子支援員は、入居中の生活が健やかに過ごせるように、生活環境を一緒に整えたり、食事を一緒に作ったり、お誕生日や出産後のお祝いをしています。家庭で過ごしているように、行事を一緒に喜び楽しみ、次の新しい生活へつながっていければと祈っております。出産後には、赤ちゃんとの生活がスタートします。赤ちゃんも、ママもはじめての事ばかり。そんな親子に寄り添いながら、時には育児のアドバイスや悩みを聞きます。親子のはじめてと一緒に過ごし、その成長と一緒に喜びます。ドアで生活後、新しい暮らしをスタートされた方には、お困りごとはないか連絡をとり、卒業されてからも寄り添っています。様々な事情でドアを訪れた方が癒され自立し、ご自身での生活を過ごされるようになることは、関わった職員として大きな喜びです。

母子支援員 K

### 事務局

事務局では、主に電話受付、いのち語り隊や県の委託事業のZ世代プレコンセプションケアの講師派遣の調整業務を行っております。事務局は直接、相談者や入居者の方と関わることはございませんが、相談回線からの電話は1コールで取るように心掛けています。電話の向こう側では、いっぱい悩んで勇気を振り絞って電話をしていらっしゃっていると思うので、速やかに相談員に取り次いでいます。ここは温かく救いの手を差し伸べている場所なのでその雰囲気が第一声で伝わり、安心していただきたいと言う思いで、毎日電話を取っています。

事務員 H



### 生活支援員

入居者さんの毎日の昼食や夕食をお作りしています。入居者さんのお誕生日や赤ちゃんの百日祝、Xmasパーティーなどの時は、いつもより少しごちそうを作ります。先日は卒業された方が赤ちゃんの2才のお誕生日をドアで過ごしたいということで来所されお食事ボランティアさんにも手伝っていただきながら、スイカの皮をボールにしたフルーツポンチやサラダの花束などを作り喜んでいただきました。栄養のあるお食事と、ふかふかのお布団、清潔な環境で、心とからだをゆっくり癒していただきたいと思います。

生活支援員 K



# 2024年度会計報告

正味財産増減計算書(2024年4月1日～2025年3月31日)

[単位:円]

	公益	法人	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	786,529	786,529	1,573,058
兵庫県委託料	49,671,778	0	49,671,778
事業収益	4,069,277	34,000	4,103,277
受取補助金・助成金	50,000	0	50,000
受取寄付金振替額	28,913,611	544,820	29,458,431
雑収益	11,993,393	25,590	12,018,983
経常収益計	95,484,588	1,390,939	96,875,527
(2) 経常費用			
事業費	90,850,368	0	90,850,368
管理費	0	11,042,726	11,042,726
経常費用計	90,850,368	11,042,726	101,893,094
評価損益等調整前当期経常増減額	4,634,220	-9,651,787	-5,017,567
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	4,634,220	-9,651,787	-5,017,567
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減	0	0	0
当期一般正味財産増減額	4,634,220	-9,651,787	-5,017,567
一般正味財産期首残高			5,017,567
一般正味財産期末残高			0
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金			39,611,144
一般正味財産への振替額			-29,458,431
当期指定正味財産増減額			10,152,713
指定正味財産期首残高			110,347,284
指定正味財産期末残高			120,499,997

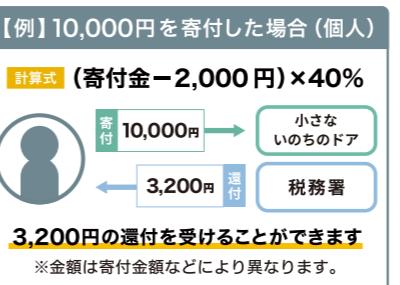
小さないのちのドアは、皆様からの寄付金で運営しています。どうぞ一緒に、小さないのちのドアを支えてください。ご支援いただいた寄付は、以下の用途に活用させていただきます。

- 相談者のための医療費
- 来所のための交通費
- 利用者の衛生用品の購入
- マタニティホームの光熱費や食費
- セキュリティ関係
- 当直や給仕のための入件費
- 必要物資 etc...



小さないのちのドアへのご寄付は  
税制優遇あり

小さないのちのドアは、社会的信頼度の高い公益社団法人と認定され、個人・法人共に税制上の優遇措置を受けることが可能となりました。法人(民間企業等)から、小さないのちのドアへ支出された寄付金について、所得金額や資本金額等から算出される一定額を限度として、損金算入すること(損金算入の分だけ、課税対象額が減少)ができます。個人の場合も、確定申告を行うことで寄付金控除を受けることができます。



## ご支援のお願い

### サポートの種類

- 一般会員 一口(個人) 10,000円/年 (団体) 100,000円/年
- 賛助会員 一口(個人) 3,000円/年 (団体) 30,000円/年
- マンスリーサポーターになる: 任意の金額/月
- 寄付をする
- ふるさと納税で寄付をする ※詳細はホームページをご覧ください
- ボランティアに参加する ※詳細は事務局へ
- 里親希望(特別養子縁組や里親制度をご紹介) ※詳細は事務局へ

### 入金先

#### 1. オンライン決済(クレジットカード決済)

Square(スクエア)・Syncable(シンカブル)・READYFOR(レディフォア)でのクレジット決済が可能です。  
<https://door.or.jp/support>



#### 2. 銀行振り込み

金融機関	三井住友銀行	ゆうちょ銀行
支店名	鈴蘭台支店(348)	099(セイキヨウ)店
種類・番号	普通5062338	当座0333599
名義	公社) 小さないのちのドア	小さないのちのドア

※三井住友銀行にご入金くださった方は、電話・FAX・メール、または、小さないのちのドア宛にお名前とご住所をお知らせください。ご連絡がないため、ご報告やご挨拶ができないままの方々がおられます。特に領収証が必要な方は、必ず連絡先をお知らせください。

#### 3. 郵便振替・自動送金

記号 00900-9  
番号 333599  
加入者名 小さないのちのドア

一般会員やマンスリーサポーターとして支えてくださる方には活動報告書(1年発行)を、ご支援くださった方には、ニュースレター(1~2年発行)をお送りいたします。  
また、ニュースレターにはご支援くださった方々のお名前を掲載させていただきます。匿名希望の方は、お知らせください。

#### 4. 現金書留

下記、事務局宛にお願いします。  
公益社団法人小さないのちのドア事務局  
兵庫県神戸市北区ひよどり台2-30-6  
TEL: 078-743-2405



#### 5. Softbankつながる募金

募金画面から寄付金額を選択し、ソフトバンクのスマートフォンをご利用の場合は利用料金の支払いと一緒に寄付できるほか、ソフトバンクボイントやクレジットカード、Yahoo!ネット募金でも寄付が可能です。



#### 6. 買取大吉モノ募金

家にある使わなくなったものを出張買取でお金に変えて寄付することができます。





公益社団法人 小さないのちのドア

<https://door.or.jp>

〒651-1123 兵庫県神戸市北区ひよどり台2-30-6

TEL/FAX : 078-743-2405

Email : [office@door.or.jp](mailto:office@door.or.jp)

2025年8月発行

SNSでも情報発信中!

